



日本財託
(東京都新宿区)
重吉勉社長(49)

当時、アパート建設会社に勤めていた真弓さんは「相続や買い替え案件を紹介してもらいたい」と銀行に飛び込み営業をしていた。住友銀行神田駅前支店

が27歳のときだった。いまは22年前、重吉社長

が27歳のときだった。いまは22年前、重吉社長

日本財託 重吉勉社長

「高根の花」に毎日電話かけ猛アタック

れ、引き合わされたのが重吉社長だった。重吉社長は、かつてアイドルをしていたこともあるという真弓夫人のかわいらしい容姿に一目ぼれした。しかし、なんといっても相手は高根の花。知りあてしはうくは積極的にアプローチすることもできず、悶々の毎日を送り、「このま

まなんの進展もなく、恋は終わってしまうのか」と思うようになっていた。そんな時、副支店長や友人たちが一緒に食事をする機会を設けてくれ、真弓さんも重吉社長へ尊敬の気持ちを抱きはじめていった。

以来、重吉社長は毎日のように彼女に電話をかけて、猛アタック。知りあてて1年ほど経って付き合うことになった。

結婚は付き合ってから1年後。「僕のことを尊敬してくれたので、彼女にとって将来の不安はなかったよ

うです」。一番の思い出は新婚旅行だ。カリブ海を楽しむためジャマイカに行った。宿泊したハーブムーンというホテルのプライベートビーチには浅瀬でも数種類の熱帯魚が泳ぎ、澄み渡った海が広がっていた。「本当にきれいで、天国のようでした。それでもあぐさく働いて2

「仕方ないのでそれからは夜もおとなしく過ごしましたよ。賃貸住宅でも木造の場合音のトラブルになりやすいですが、階下の人には配慮が必要だと改めて痛感しました」

結婚から20年以上たった今でも「結婚当時と同じように愛している」という重吉社長。ケンカによる危機

わが愛妻日記



第3回

「美女と野獣」「奇跡だ」

日本財託(東京都新宿区)

の重吉勉社長と真弓夫人の

に飛び込んだところ、当時の副支店長に「アパートを

買ってお客を紹介できないが、不動産会社を立ち上げて1年ほど経って付き合う

ことになった。

結婚は付き合ってから1年後。「僕のことを尊敬し

てくれたので、彼女にとって将来の不安はなかったよ

まなんの進展もなく、恋は終わってしまうのか」と思うようになっていた。そんな時、副支店長や友人たちが一緒に食事をする機会を設けてくれ、真弓さんも重吉社長へ尊敬の気持ちを抱きはじめていった。

以来、重吉社長は毎日のように彼女に電話をかけて、猛アタック。知りあてて1年ほど経って付き合うことになった。

結婚は付き合ってから1年後。「僕のことを尊敬し

てくれたので、彼女にとって将来の不安はなかったよ

人であつくり過ごすこともできなかったたので毎日が辛

せでした」

旅行中トラブルもあった。2人が滞在したのは木造2階建てコテージの2階部分。1階にはアメリカ人の家族連れが宿泊してい

た。あるとき、浜辺でその家族の奥さんに声をかけられた。いわく、「夜の音がうるさく、子どもの教育上よくない」とのこと。

「情けないお願いですけどね」(重吉社長)

ケンカすると気まずい雰囲気になるが、次の日には必ず、真弓さんから「昨日はごめんね」と謝る。重吉社長も「わかった。もういいよ」と口では言うものの、内心その言葉にほっとするのだ。その度に、愛おしく「守ってやりたい」という気持ちを新たにしたいという。

(編集デスク・蔡有理)